

東京青森県人会の機関誌  
というので、今回は、江  
戸時代における「青森県東  
京事務所」といえる、大名  
の江戸屋敷について紹介し  
よう。

ご存じの通り、江戸時代  
の諸大名は参勤交代制によ  
り、国元と江戸の二重生活  
を送っていた。各大名は江  
戸での生活の拠点として、  
それぞれ江戸屋敷を構えて  
いた。知事がたまに出張で  
訪れる現在の東京事務所と  
違い、その敷地は广大で、  
多くの江戸詰の藩士達も住  
んでいた。通例、上屋敷と

呼ばれる藩主が住む屋敷の  
ほか、中屋敷、下屋敷、さ  
らには抱え屋敷と言われる  
いくつもの屋敷があった。  
なぜこんなに屋敷が必要なの  
だろうか。江戸は火事が多  
い土地であり、類焼によ  
るリスクを分散したこと、  
隠居した元藩主や世継ぎの  
住居として使われていたこ  
と、上屋敷だけで収容しき  
れない藩士を住まわせてい  
たことなどが理由に挙げら  
れる。

これらの屋敷は、いわば  
幕府から拝領された「官舎」  
であり、勝手に処分するこ  
とが出来なかった。江戸屋  
敷は現在の都心の一等地に  
あるので、明治以降は官庁  
街やオフィス街に変貌した  
り、広大な敷地を利用した  
公園などに姿を変えている。  
江戸時代に現在の青森県  
にあった藩は、南部家の盛  
岡藩・八戸藩、津軽家の弘  
前藩・黒石藩の四藩。盛岡  
藩の上屋敷は外桜田（現千  
代田区内幸町二丁目）にあっ  
た。

ばせるもの  
は残ってい  
ないが、付  
近には「南  
部坂」の地  
名も残る。  
八戸藩の  
上屋敷は麻  
布市兵衛町  
（現港区六  
本木一丁目）  
にあった。

## 東京にみる青森の 痕跡／大名屋敷は今

中野渡 一耕

（県民生活文化課  
県史編さんグループ 主幹）

敷地は約六、〇〇〇坪  
で、現在の日比谷公園の周  
辺。盛岡藩の場合、むしろ  
廣大だったのは麻布一本松  
（現港区南麻布五丁目）に  
あった下屋敷で、上屋敷の  
5倍近い規模（二万八、〇  
〇〇坪）を有していた。明  
治時代には有栖川宮家の御  
用地となり、現在は有栖川  
宮記念公園となっている。  
もちろん、現在では何も偲  
り、江戸での大名の生活  
を偲ばせる多くの調度品が  
出土している。  
弘前藩の上屋敷は本所二  
ツ目（現墨田区亀沢二丁目）  
にあった。当地に移転した  
のは元禄元年（1687）  
のことだが、すぐ近くには  
吉良上野介の屋敷もあった。  
江戸屋敷で記載された「弘  
前藩江戸日記」にも討ち入  
りの記述がある。敷地は約

敷地は約四、五〇〇  
坪。現在では複合ビ  
ル「ラフォーレミュー  
ジアム六本木」が建っ  
ている。同ビルの建  
設に伴い、昭和63年  
に屋敷跡の発掘が行  
本時代から本所三ツ目（現  
墨田区立川二丁目）にあっ  
た。こちらは近くに遠山金  
四郎の屋敷があった。  
江戸時代の住宅地図とい  
える「江戸切絵図」につい  
ての本が各種の出版社から  
刊行されている。週末は切  
絵図を片手に、江戸の昔を  
散歩してみたいかがだろ  
うか。



文久元年（1861）

盛岡藩下屋敷（●南部美濃守）と  
八戸藩下屋敷（●南部遠江守）

※絵図は、いずれも人文社

『日本地図選集 嘉永慶応江戸切絵図』より転載。



文久3年（1863）

弘前藩上屋敷（家紋+津軽越中守）